



邸内には菊亭侯爵が植えた黒松が今も残っている

開拓の志に燃え北海道へ

旧華族（清華家）菊亭脩季は安政4年(1857)に京都で貴族の子として生まれ、遷都とともに東京へ移住した。

かねてから北海道開拓の志に燃えていたので、北海道で活躍していた伯父の三条實美のいる北海道に渡り、明治12年(1879)3月に開拓使勸業課に勤務した。明治15年に開拓使が廃止され、その後は農商務省札幌勸業育種場詰、続いて明治16年3月に北海道農業管理局事務取扱となり、同年7月札幌農業事務所副長となって農業振興に努力した。

今も残る数本の黒松

明治17年(1884)に27歳で侯爵を授けられた。明治19年5月に退職して、9月に上白石村で農園の経営を始めた。翌明治20年に月寒村の畑地9万8,877歩（約33 $\frac{1}{2}$ 畧）の払い下げを受けている。

右ページの新聞によれば『東京府華族、当時上白石村寄留』となっている。しかし、この月寒村の払下土地墾成について明治20年以降年次別墾成面積に関する計画書を提出しているが墾成面積はない。

その後、明治22年12月、三条實美、蜂須賀茂韶、戸田康泰などと協同で雨竜原野1億5,000万歩（約5万 $\frac{1}{2}$ 畧）の貸し

下げを受け、華族組合農場（雨竜農場）の経営を始めた。この頃に上白石寄留地を離れたようだ。そのため、上白石に住んだのは札幌農事事務所退職後の明治19年から雨竜農場を始めた明治22年までの短い期間だったと思われる。現在は当時の建物は残っていないが、本州から取り寄せて植えた黒松のうち、樹齢百数十年を経た数本が庭に残っている。

菊水の名の由来となる

上白石を去った後、明治24年三条實美公の死去に伴って雨竜農場は解体、菊亭脩季は深川、雨竜未開地6,000町歩余（約6,000 $\frac{1}{2}$ 畧）の貸与を受け、菊亭農場を開いたが、これもやがて返納したり、小作人に売却、譲渡するなどして、負債処理のために全地を処分している。

その後中央政界で活躍したが、明治38年(1905)10月に46歳の若さで東京で亡くなった。

侯爵の死後、長子の公長が跡を継いで農場内の邸宅に住んだが、実際には東京、京都に滞在することが多かったようだ。そのため、道内各地に所有していた農地など約6万 $\frac{1}{2}$ 畧を売って、代わりの土地を京都付近に買った。

北海道開拓を夢見た菊亭侯爵の「菊」と豊平川の「水」から菊水誕生

わへつこうきょう





菊亭脩季

売却された土地は区画整理 されて宅地に分譲

上白石の農場については、大正15年に北海道炭坑汽船株式会社(略称北炭)が住宅地組合を結成して、1坪(3.3平方メートル)2円で一括買収し、住宅地組合は翌年昭和2年ただちに区画整理にとりかかった。札幌初の区画整理はその2年前の北炭の桑園土地組合だから、この組合は札幌で2番目の土地区画整理組合ということになる。

組合は札幌から分譲地へ直行する上白石橋を昭和5年に豊平川に架けた。分譲地は1区画500平方メートルほどで、3.3平方メートルあたり4円、250宅地が分譲された。

買ったのはほとんど北炭の社員で、退職後に住むつもりで、それまでは菊亭侯爵時代の小作人たちに農地として貸していた。しかし、終戦後に農地解放が行われ、250戸のほとんどが不在地主とされて耕作していた人に解放することになってしまった。

なお、札幌市と合併後の昭和29年(1954)、菊亭侯爵が上白石村に寄留した地域であることにちなみ、菊亭の「菊」と豊平川の「水」から地名は「菊水」と改称された。

(塚本謙蔵)

昭和23年頃米軍撮影の航空写真に見る菊亭侯爵邸。当時は蛇行した豊平川がすぐそばにあった

七十 八百 八千 壹 層 四

(休 定 日 曜 月)

(逓 信 省 認 可)

北海道毎日新聞

第 九 拾 六 號

發 行

北海道毎日新聞

飛 報

○ 拂下土地整理成
札幌郡月寒村
一五万四千二百四拾三歩
内
五千四百二拾四歩
四万八千八百拾九歩
内
四万八千八百拾九歩
二十一年中完成
二十一年全上
二十二年全上
二十三年全上
二十四年全上
二十五年全上
二十六年全上

札幌郡月寒村
一五万四千二百四拾三歩
内
五千四百二拾四歩
四万八千八百拾九歩
二十一年中完成
二十一年全上
二十二年全上
二十三年全上
二十四年全上
二十五年全上
二十六年全上

東京府葛飾区
當時札幌郡上白石村寄留
畑地 菊亭脩季
一五万四千二百四拾三歩
内
五千四百二拾四歩
四万八千八百拾九歩
二十一年中完成
二十一年全上
二十二年全上
二十三年全上
二十四年全上
二十五年全上
二十六年全上

○ 島尾尾崎、雨宮官の建築技と題し去月廿九日の毎日新聞に記す所を見るに曰く雨宮官、近日各々元老院へ一篇の建議技を出されしことは讀者の知る所なるが

二十一年中完成
二十一年全上
二十二年全上
二十三年全上
二十四年全上
二十五年全上
二十六年全上

菊亭侯爵が月寒村の土地の払い下げを受けたことを報じた明治20年11月6日発行の北海道毎日新聞(現在の北海道新聞の前身)の記事

